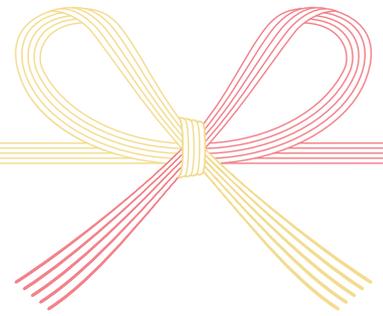


「長寿のお祝い」について



■贈答習慣

元々は古来の中国より伝来した風習で、古くは「算賀」と言われて年齢を重ねる祝いとして、初老と言われた四十歳より十歳ごとに設けられていました。江戸時代の中期の頃より、「還暦」を始めとする現在の長寿祝いが一般化されてきましたが、長寿の時代になった昨今では還暦を省いて「古希」から祝うことが多く、「傘寿」や「卒寿」も省略されているようです。

■お祝いを贈る時期

半月前頃より当日までに贈ります。

■お祝い返しの時期

本人が招いた祝宴なら当日に「引き出物」を、出席されなかった人や逆に祝宴を開いて貰った人達には、後日(一週間以内に)「記念品」を贈ります。

■ひとくちMEMO

金品を贈る場合・お返しともに、のし紙・のし袋は花結び祝、金封は赤白の花結びかあわび結びでも良い。

■ご贈答のマナー

贈答様式	贈り元	献辞(表書き)	慶弔用品
祝い品を贈る	身内・身内以外	御還暦お祝 古希お祝い	【のし紙】花結び祝/※(結切り祝)
祝い金を贈る	身内・身内以外	寿米寿 御祝 寿	【のし袋】花結び祝/※(結切り祝) 【金封】金銀花結び/赤白花結び 【金封】金銀あわび結び/赤白あわび結び
祝い返し	本人	内祝 古希内祝 白寿記念	【のし紙】花結び祝/※(結切り祝)

※一生に1度の意味を込めて使われることもある

■長寿祝の種類と由来

数え年	満年齢	祝い行事	読み方	長寿祝い名の由来
61歳	60歳	還暦祝い	かんれき	十干十二支の暦では60年で一巡するとされ、61歳になって生まれ干支に還る(本卦還り=ほんげかえり)ことから。
70歳	69歳	古稀祝い	こぎ	唐の詩人、杜甫(とほ)の漢詩「人生七十古希稀(まれ)なり」から採られた。
77歳	76歳	喜寿祝い	きじゅ	草書で書いた喜の字が七十七に読めることから。
80歳	79歳	傘寿祝い	さんじゅ	傘の略字「傘」が八十と読めることから。
88歳	87歳	米寿祝い	べいじゅ	米の字を分解すると、八十八と読めることから。
90歳	89歳	卒寿祝い	そつじゅ	卒の略字「卒」が九十と読めることから。
99歳	98歳	白寿祝い	はくじゅ	百から一を取ると白になることから。
100歳	99歳	百賀祝い	ひゃくが・ももが	文字どおり100歳になったお祝い。
		百寿祝い	ひゃくじゅ・ももじゅ	
		上寿祝い	じょうじゅ	
		紀寿祝い	きじゅ	
101歳	100歳	百一賀祝い	ひゃくいちが	100歳以上は毎年百二賀・百三賀などとして祝う。
108歳	107歳	茶寿祝い	ちゃじゅ	茶の字を分解すると、十が二つと八十八になることから。
110歳	109歳	珍寿祝い	ちんじゅ	文字どおり珍しいことから。
111歳	110歳	皇寿祝い	こうじゅ	皇の字を分解すると、白(99)と十二になることから。
120歳	119歳	大還暦祝い	だいかんれき	二回目の還暦を迎えることから。

▶ 還暦は満年齢、それ以外は数え年で祝います。

●地区のしきたり、宗教の違いにより、使い方が異なる場合がありますのでご注意ください。